

梶田半古 はしかた、日本畫家。明治二年六月二十五日東京生れ、大正六年四月二十二日歿（一八七〇—一九二七）。本名健太郎。別號玉洲、白玉、英州。金工家政晴の長男。鍋田玉英の學び、菊池容齋の私淑。明治二十四年日本青年繪畫協會創設に參加、三十年日本美術院贊助員、翌年富山縣女子美術學校教頭。尾崎紅葉等の小説挿畫をも知られた。妻は紅葉阿下一の作家北田薄氷 うすらひ。添田達嶺著『半古と楓湖』（昭和二十年十月十日睦月會）刊。

著書『畫事入門』（明治四十一年十一月十二日日本美術會、博文館發賣）等。